

2026年8月期 第2四半期 決算説明会資料

株式会社エヌ・ピー・シー（グロース：6255） 2026年4月10日

INDEX

1. 2026年8月期 第2四半期決算概要
2. 当社の取り組み

2026年8月期 第2四半期決算概要

2026年8月期 第2四半期決算概要 連結損益計算書

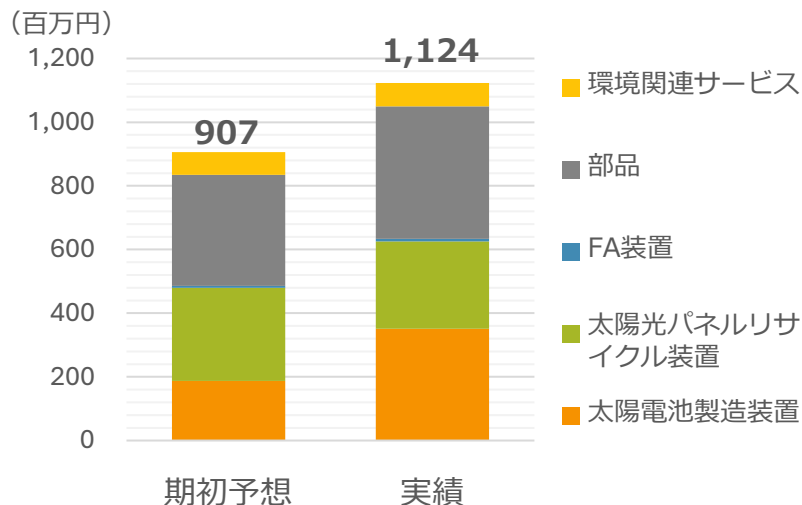
(単位：百万円)

	2025年8月期 第2四半期		2026年8月期 第2四半期						2026年8月期 通期（参考）	
	実績		期初予想 (2025.10.9発表)		実績				期初予想 (2025.10.9発表)	
	金額	百分比 (%)	金額	百分比 (%)	金額	百分比 (%)	前期比 (%)	期初 予想比 (%)	金額	百分比 (%)
売上高	3,121	100.0	907	100.0	1,124	100.0	△64.0	23.9	8,014	100.0
売上総利益	1,219	39.1	401	44.3	585	52.0	△52.0	45.9	1,952	24.4
販売管理費	563	18.0	590	65.1	578	51.4	2.7	△2.0	1,192	14.9
営業利益	656	21.0	△189	△20.8	6	0.5	△99.1	-	760	9.5
営業外収益	5	0.2	6	0.7	18	1.6	260.0	200.0	11	0.1
営業外費用	15	0.5	2	0.3	10	0.9	△33.3	400.0	4	0.1
経常利益	646	20.7	△184	△20.4	14	1.2	△97.8	-	766	9.6
特別利益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別損失	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
税引前当期純利益	646	20.7	△184	△27.8	14	1.2	△97.8	-	766	9.6
親会社株主に帰属する当期純利益	479	15.3	△252	△27.8	△49	△4.4	-	-	531	6.6

(注) 前期比及び期初予想比はその増減比です。

2026年8月期 第2四半期決算概要 期初予想と実績の差異

売上高



■売上高（実績）の主な内容

- ・ First Solar社向け装置移設作業、改造案件
- ・ 国内向けペロブスカイト開発装置
- ・ フレーム・J-Box分離装置（国内3台、海外1台）
- ・ ガラス分離装置（国内2台、海外1台）
- ・ 部品

■予想と実績の差異

- ・ First Solar社の移設作業のボリュームが増加した
- ・ 部品が期初予想より好調だった

利益

各段階利益が上方修正

- ・ 期初の段階で改造案件や太陽光パネルリサイクル装置、部品など利益率が高い案件が中心で予定していたが、そこからさらに利益率が高い移設作業や部品の売上増による増益があったことや、改造を含む案件における原価低減により利益率が向上
- ・ 販売管理費、営業外損益、税金等についてはほぼ予定どおり

（ご参考）通期業績予想について

- ・ 第4四半期に国内向け大型案件を売上予定であり、期初の見込みどおり下期偏重となる予定
- ・ その他の案件の構成に若干の変動はあるものの、足元の業績着地見込みは期初予想の計画の範囲内で推移

2026年8月期 第2四半期決算概要

受注高・受注残高

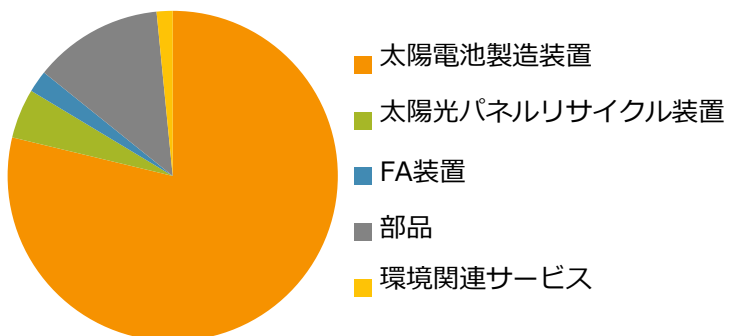
(単位：百万円)

	2025年8月期 第2四半期		2026年8月期 第2四半期			
	受注高	受注残高	受注高	前期比(%)	受注残高	前期比(%)
合計	1,059	6,017	3,574	237.5	9,173	52.5

(注) 前期比はその増減比です。

受注高の内訳

受注高の内訳



太陽電池製造装置

- ・ First Solar社向け装置移設作業、改造案件
- ・ First Solar社向けペロブスカイト開発装置
- ・ 前工程向けインクジェット塗布装置
- ・ 米国顧客向け改造案件
- ・ 国内向けペロブスカイト関連案件

太陽光パネルリサイクル装置

- ・ フレーム・J-Box分離装置 国内2台、海外1台
- ・ ガラス分離装置 国内1台
- ・ EVAスクレーパー 国内2台

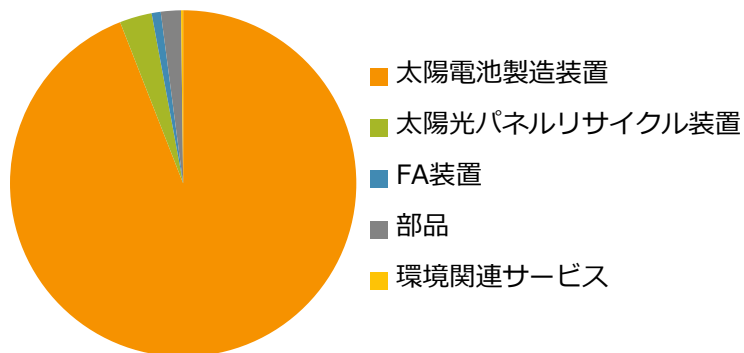
FA装置

- ・ 梱包装置、特注真空包装機など (いずれも国内企業)

その他

- ・ 部品、検査サービス、植物工場など

受注残高の内訳



2026年8月期 第2四半期決算概要

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025.8末	2026.2末		2025.8末	2026.2末
資産	12,911	12,720	負債	2,075	2,618
流動資産	9,649	9,574	流動負債	1,972	2,502
現預金	6,421	5,291	買掛金・電子記録債務	1,063	1,023
売掛金・電子記録債権	1,962	514	未払法人税等	263	27
仕掛品	1,044	3,180	前受金	287	1,148
原材料・貯蔵品	21	7	引当金	122	117
その他	199	581	その他	235	185
固定資産	3,261	3,145	固定負債	103	116
建物・構築物（純額）	1,313	1,235	純資産	10,835	10,102
機械・装置（純額）	33	35	資本金・資本剰余金	5,566	5,567
土地	1,548	1,548	利益剰余金	5,396	5,130
その他	366	327	自己株式	△263	△745
			その他	135	149

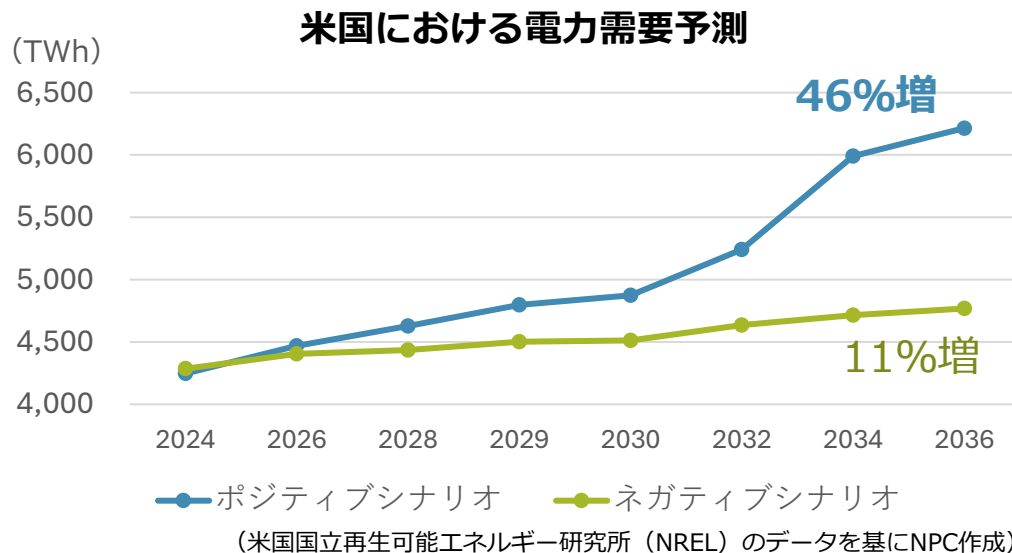
特記事項

- ・ 第4四半期の大型案件の売上計上に向けて仕掛品が積みあがっている
- ・ 約5億円（発行済株式総数の約3.2%相当）の自己株取得を実施
- ・ 中期的な業績拡大に取り組んでおり、運転資金・安全資金を確保しつつ成長のための投資をしていく（M&Aによる事業領域の拡大、人的資本への投資、仕入・生産体制の強化、スタンダード製品を含む研究開発等）

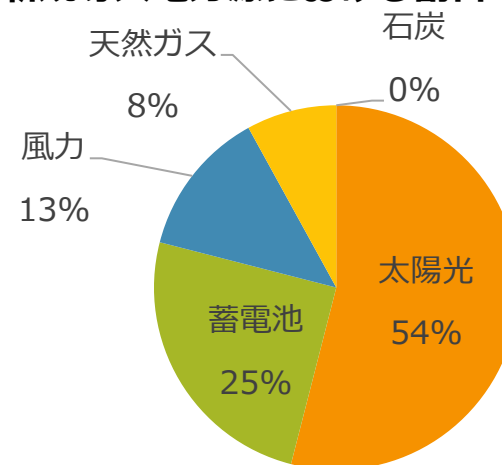
市場環境 当社の取り組み

太陽電池製造装置： ①太陽光を取り巻く外部環境

米国の太陽光発電の市場環境



新規導入電力源における割合 (2025年)



(SEIAのデータを基にNPC作成)

⇒電力需要の増加に伴い、スピーディーに導入を進められる太陽光の需要も増加する可能性高
当社顧客にとっても前向きな市場環境

中国の太陽光関連政策

- ・今まで中国では太陽光パネルおよびその原材料について、輸出にかかる税金が還付されていたが、2026年4月より全面廃止 (実質的に税負担が増加)
 - 中国製パネルが1割~2割程度値上がりする見込み
 - 海外でパネルの製造を行っている場合でも、原材料が値上がり、パネル自体も値上がりする可能性
- ⇒中国メーカーの価格競争力が低下することで当社顧客のパネルメーカーに対してはポジティブな影響

② First Solar社の状況と当社の取り組み

First Solar社の業績予想と同社の受注状況

	2025年（実績）		2026年（予想）	
売上高	52億ドル	(8,060億円)	49億～52億ドル	(7,595億～8,060億円)
売上総利益	21億ドル	(3,255億円)	24億～26億ドル	(3,720億～4,030億円)
営業利益	16億ドル	(2,480億円)	非公表	
設備投資額	15億ドル	(2,325億円)	8億～10億ドル	(1,240億～1,550億円)
出荷量	17.5GW		17.0～18.2GW	

- ・受注残高は2025年4Q決算発表時点で**50.1GW**

（出所：First Solar '25 4Q Earnings and 2026 Guidance Call）

First Solar社の設備投資・開発

- ・2025年11月にレイジアナ工場を稼働開始
- ・マレーシア、ベトナム工場から設備移設・装置改造等サウスカロライナ工場の準備中、2026年末に稼働開始予定
- ・サウスカロライナ新工場は後工程のみで移設が中心のため、2026年の設備投資は前年比で減少の見込みであるが、ペロブスカイトなどの技術開発に力を入れる方針であることなどが理由

当社の今後の取り組み

- ・サウスカロライナ工場向けの移設作業およびその他工場を含む改造案件
- ・引き続きペロブスカイト向け装置への対応に取り組む

太陽電池製造装置：

③ペロブスカイト太陽電池（国内企業の動向）

市場動向

量産化

積水化学工業

- ・フィルム基板
- ・2027年の100MW級生産設備の稼働に向けて準備中

研究開発・実証実験

パナソニックHD（2026年試験販売）

- ・ガラス基板、建材一体型
- ・長期実証実験を2026年3月に開始、自社の建物窓に設置

アイシン（2028年試験販売、2030年本格事業化）

- ・折り曲げることができる薄板ガラス基板
- ・自治体など実証実験を行っている

リコー（2030年度量産開始）

- ・フィルム基板
- ・自治体などとの実証事業のほか、宇宙ステーション補給機への搭載で宇宙実証を実施
- ・2030年度に年間製造能力300MW以上を目指す

東芝

- ・結晶シリコン系とのタンデム
- ・2029年度までに変換効率30%以上、耐久性20年以上の達成を目指す

カネカ（2028年度販売開始）

- ・シリコン結晶系とのタンデム
- ・屋根・壁などの建物・ビル向けの実証を実施予定

長州産業（2030年製品化）

- ・シリコン結晶系とのタンデム
- ・生産会社を立ち上げ年産6GW規模を目指す

エネコートテクノロジーズ

- ・フィルム基板
- ・設置する場所を選ばず、どこでも発電するパネルの提供を目指す

シャープ、倉元製作所 など

太陽電池製造装置：

③ペロブスカイト太陽電池（市場と実績）

その他の市場動向

国内

- ・高市総理がエネルギー安全保障及び国内産業振興の観点からペロブスカイトの開発を支援していく旨を発言
- ・開発、生産、導入へ政府・自治体から補助金交付
- ・企業と協力し自治体による実証実験が盛んに行われている

海外

- ・米国ではタンデムパネルを中心にスタートアップ企業を中心に開発が行われている
- ・欧州ではタンデム、フィルム基板両方の開発が企業や研究機関によって行われている

当社の実績および今後の取り組み

国内

- ・複数社に装置を納入済み、売上予定
- ・来期以降の業績に貢献する複数の案件を受注獲得予定（一部受注済み）

First Solar社

- ・後工程ではペロブスカイトタンデムパネルの開発装置を納入済み、次のステップに向けた装置も受注済み

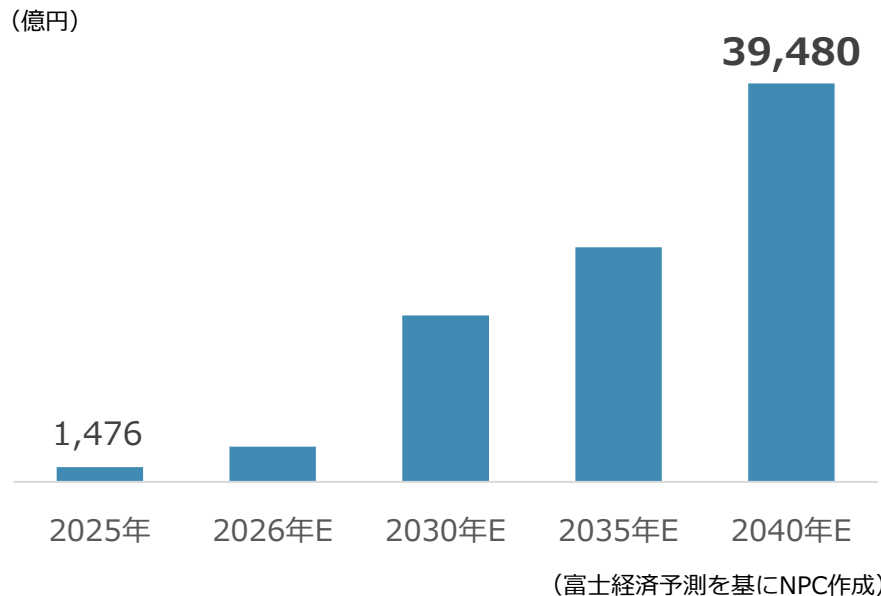
インクジェット塗布装置

- ・前工程向けにインクジェット塗布装置を受注済み、**追加受注に向けて取り組む**
→**前工程への参入に成功**、今後国内を含めさらに受注を取り込む

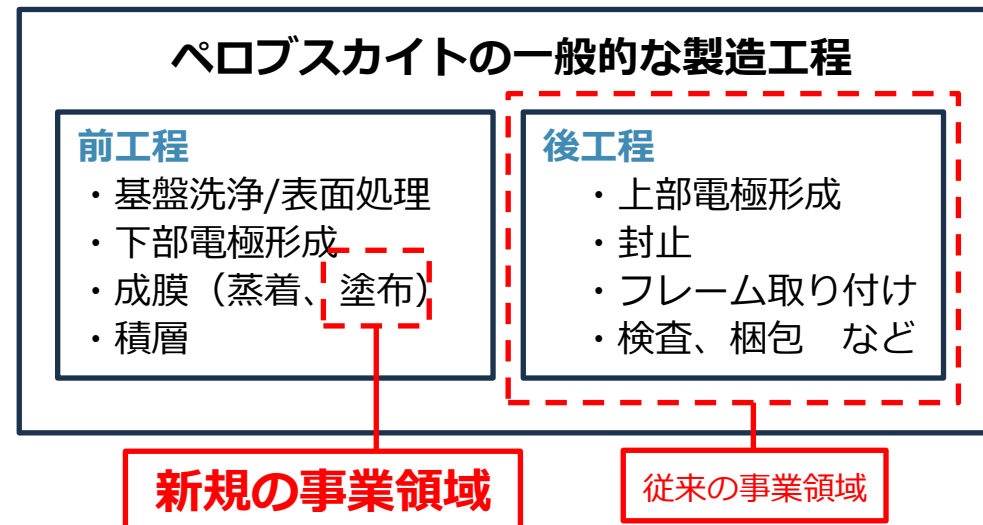
太陽電池製造装置： ③ペロブスカイト太陽電池（前工程への参入）

市場拡大と前工程への参入による事業領域の拡大

ペロブスカイト太陽電池の世界市場規模



NPCの事業領域



市場の拡大



事業領域の拡大
(市場規模が大きい前工程への参入)

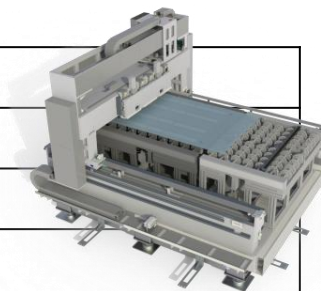
拡大するペロブスカイト太陽電池市場において、装置単価が高く市場規模が大きい前工程の装置を提供していく

太陽電池製造装置： ③ペロブスカイト太陽電池（前工程への参入）

Gosan社の概要と当社の取り組み

前工程（インクジェット塗布装置）におけるGosan Techとの連携

社名	Gosan Tech Co., Ltd.（韓国）
設立年月日	2015年12月7日
主な取扱製品	インクジェット塗布装置（自社製品）
強み	・ EPSONのプリントヘッドを搭載し、均一性が高い成膜技術 ・ 高い精度を要求される有機EL業界における韓国大手企業への実績
主な株主	創業者、韓国の金融系VC、セイコーエプソン（VCとの合併経由）、NPC
NPCとの関係	2025年9月 業務提携 2026年3月 資本提携（NPCによる出資）



■ 当社の強みとの親和性

シナジー効果

太陽電池メーカーの知見

松山工場の生産能力

太陽電池業界での実績

上場会社の与信

- ・ 太陽電池メーカーの安全基準/品質基準に適用させたラインの構築
- ・ 顧客のニーズに沿った柔軟なライン構築や大規模案件への対応
- ・ 生産増による販売台数の増加

- ・ NPCの実績を活用した装置の提供

太陽電池製造装置： ③ペロブスカイト太陽電池（前工程への参入）

事業フローと今後の可能性

■事業フロー



■今後の可能性

日本を含む太陽電池メーカー

- ・今後主流となるインクジェット方式の装置を納入、将来的に量産化のための装置獲得に繋げる

その他

- ・インクカートリッジ等消耗品が多く、ストックビジネス化が期待できる
- ・ペロブスカイト太陽電池以外の製品の塗布装置への取り組み

市場および当社の取り組み

太陽光パネルリサイクルの日本市場の動向

■ リサイクルの法制化への動き

- ・ 2026年1月、環境省と経済産業省より、太陽光パネルのリサイクルの新制度案が発表
→メガソーラー事業者にパネル廃棄計画の事前提出、リサイクルを行うよう義務付ける内容
⇒法案が閣議決定、現在会期中の特別国会にて提出予定
- ・ リサイクル義務付けにより、高いリサイクル率を誇る装置を販売する当社にはビジネスチャンス

■ 再資源化高度化法

- ・ 2025年11月より施行、廃棄物の処理について高度な処理を行うことを条件に国から広域認定される法律
- ・ 廃太陽光パネルの処理での認定には、実質的にガラスの水平リサイクルが必須
- ・ 最も上位の認定を受けるためには再生材を同じ出し先への安定的な供給が必要
→当社装置（ホットナイフ、EVAスクレーパー）は水平リサイクルを実現、AGCとの協業により出し先も確保済
⇒当社装置導入企業は認定される可能性高、既に複数の顧客が認定を受けるため申請中

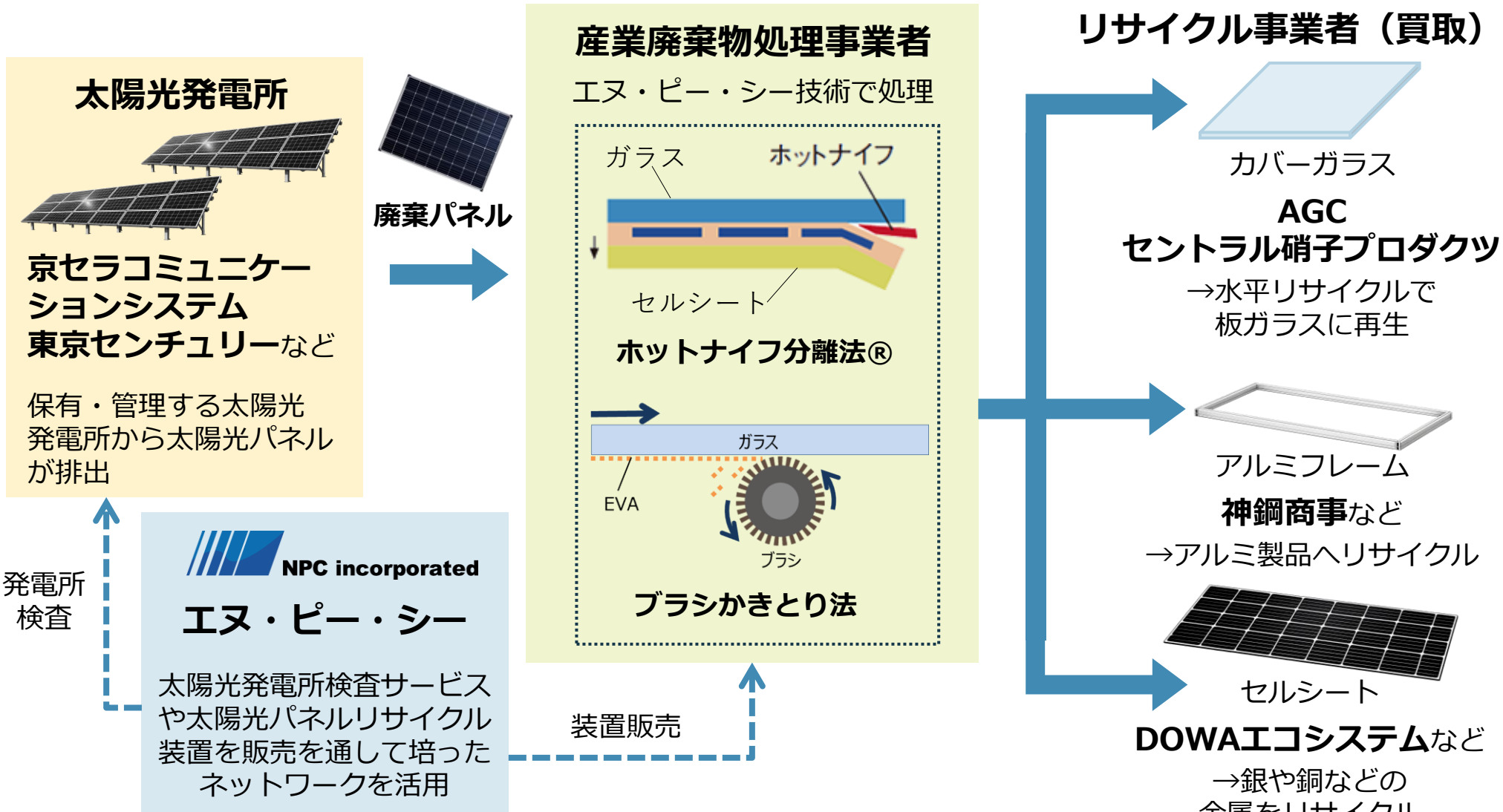
■ AGC社との取り組みの進捗

AGC社による

- ・ 当社の装置で分離されたカバーガラスの有価買取、水平リサイクル
- ・ 効率的なカレット回収に必要な物流網の整備支援など
⇒EVAスクレーパーを含む装置の受注に成功、その他にも装置導入に前向きな企業が増加

太陽光パネルリサイクル装置（当社の状況）

太陽光パネルリサイクルのネットワーク構築



FA装置

■ FA装置

- ・真空ラミネーターの引き合いが太陽電池メーカー、材料メーカーを中心に増加中
- ・米国の日系自動車部品メーカーから継続的にリピート注文あり
- ・AI関連需要の影響で半導体業界や電子部品業界は好転すると見込まれており、設備投資なども行われていく可能性あり

■ 廃棄物自動化装置

- ・前期に松山容器株式会社へAI搭載選別機を納入した実績を活かし、中四国エリアを中心に営業強化中

* 当社が廃棄物自動化装置にチャレンジする理由

廃棄物は大きさや形状にばらつきがあり、処理プロセスも対象物や企業によって様々

→自動化・装置の標準化が難しく、対応するには案件ごとに装置のカスタムが必要

しかし・・・

既存選別機メーカーはスタンダード製品が中心

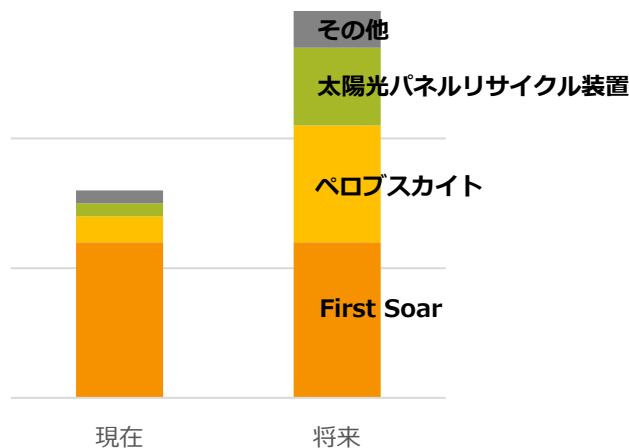
⇒**オーダーメイド装置を提供する当社にとってビジネスチャンス**



松山容器へ納入した自動選別機
既設コンベアラインに装置を設置し、低コストで導入

中期的な事業展開

中期的な売上高イメージ



特定顧客への偏重を解消し「変化に強い企業」になる



売上高を伸ばしながら、売上構成を変化させていく

(FS社 : ペロブスカイト : リサイクル装置 : その他) = (4 : 3 : 2 : 1)

- ・ 主要取引先であるFirst Solar社との取引を維持する
- ・ 成長している市場や未開拓市場で売上高を伸ばす
(ペロブスカイト市場、太陽光パネルリサイクル市場、産廃市場等)
- ・ 生産体制の強化 (人材獲得・強化、外部委託先の構築等)

進捗状況

■ 外部環境による追い風

- ・ 国内産業育成としての政策的な後押しによるペロブスカイトに取り組む国内メーカーの増加
- ・ 太陽光パネルリサイクルの法制度化に向けた動きや、再資源化高度化法における当社独自技術の採用

■ 上期の取り組み

- ・ First Solar社のグローバルな生産体制の最適化 (移設、改造)、開発・新製品への対応
- ・ ペロブスカイトの前工程での実績獲得
- ・ 太陽光パネルリサイクル装置のスタンダード製品のランナップ拡大 (EVAスクレーパー、割れガラス分離装置)

中期的な目標の達成に向けて順調に進捗中

IRメールマガジンのご案内

IRメールマガジンで当社の最新情報をお知らせしています

IRメールマガジン登録のメリット



適時開示があった場合、速やかに情報を入手することができます。



月1回配信している「NPC通信」では最新の市場動向等をお知らせします。



不定期で開催している工場見学会等をメルマガ登録者に優先的に早期案内します。

上記以外のお知らせも都度配信しています

■登録方法

- ①当社社員にお声がけ下さい。当社で登録作業を行います。
- ②以下のURLから必要事項を記入の上、ご登録作業をお願いします。

<https://www.npcgroup.net/ir/mail-magazine>



本日はありがとうございました

NPCグループは、

「我々は、もの創りを通して、自然と社会と人間に必要とされる企業を目指します。」
という企業方針に則り、たゆまぬ技術革新の努力により創り出す製品を通じ、地球環境、
地域社会等に貢献して参ります。

IR問い合わせ窓口

株式会社エヌ・ピー・シー

総務部 IR担当

電話 : 03-6240-1206

FAX : 03-5817-8835

E-Mail : npc.ir@npcgroup.net

<将来見通し等に関する注意事項>

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。